

# 株式会社エフエム茶笛

## 平成 25 年度第 2 回番組審議会議事録

1. 開催年月日：平成 25 年 5 月 20 日（月）13 時 00 分～14 時 00 分

2. 開催場所：株式会社エフエム茶笛 2階 会議室

3. 委員の出席

委員総数：6名

出席委員数：6名

出席委員：大山博（番組審議委員会長） 水村雅啓 小林昌幸 宮岡利雄  
飯島静江 黒川進

放送事業者側出席者：代表取締役社長 荻野 喜美雄  
専務取締役 東 たか子  
営業課長 宮岡 洋明

4. 議 題：番組の放送内容について

5. 議事概要：議題に沿って各委員お一人お一人の放送聴取の感想・意見・疑問点などを挙げていただき、他の委員と意見を交わす形式にて議事を進行、必要に応じて放送事業者側出席者が説明・回答しながら会を進めた。

## 6. 審議内容

事業者：これより各委員の皆様からご意見をいただきます。

委員：自社制作番組では、防災関係の話題を恒常的に採り上げていまして、非常に心強く感じています。入間市の市民意識調査でも、20年度調査の「ラジオを持っているか」の問いに対して、『持っている』が58.9%、『持ちたい』が29.3%、併せて88.2%の方々がラジオとの接点を求めています。24年3月の調査では、(同じ問いに対して)『持っている』が7.6ポイント増えまして66.5%、『持ちたい』が23.2%、全体の割合は9割弱で前回調査と変わりませんが、震災以降、ラジオを持っている市民の方々が増えています。また、「市政の情報を得る情報源について」の問いに『エフエム茶笛』と回答した方々は、20年度調査の5.8%から24年3月の調査では6.8%に1ポイントアップしています。“ながら”の利便性が、ますます利用者を増やしていると感じています。

委員：今朝、初めて「モーニング・コミュニティ」(6:00~8:00)を最初から最後まで聴きました。全国規模でニュース性のある話題は、他社制作番組ではありますが、聴きやすく感じました。

委員：ニュースについては、全国ニュースや放送対象地域内でのニュースは番組内でよく耳にしますが、新聞を購読する世帯が減少する中、埼玉県内まで広げたニュースがあっても幅が広がるのではないのでしょうか。また、読み手が内容を理解していれば、聴き手にニュースの内容も伝わってきます。難しいニュースが多い今日ですが、そのあたりは努力を続けていただきたいと思います。

委員：以前の審議会で、「マジックマンの頑張るデイ」でマジックマンさんの語りがクドいとのご意見が挙がっていましたが、注意して聴いてみたところ、確かにクドさはありますが、実際の介護に携わっているからこそそのお話しなど、好感が持てます。

事業者：マジックマンさんは、以前は情報を扱う時にも資料の読み上げが多かったですが、自身の思いを自身の言葉で語るようになり、番組内容が良くなりました。

委員：選曲についてです。各番組でリクエストの対応や団塊世代など年代を考えた選曲に努力を感じます。先日、宮岡さんの番組で放送された曲には、涙が流れそうになりました。今後も選曲に期待しています。

事業者：開局当初、選曲においては、早朝は昭和の歌謡曲を中心に、昼へと時間の経過に合わせて徐々に年代を新しくするなど、リスナーである団塊世代を意識するよう指導していました。

委員：団塊世代と言えば、(入間市文化創造アトリエ) アミーゴの来場者においても同様です。以前は、行政側からは若い世代を捉えてほしいという要望に応えようと努力していましたが、とても苦戦していました。そこで一部の企画のターゲットを団塊世代にしてみたところ、期待感と反響を実感しました。町を支えている人達がどの世代なのかを実感しています。決して若い人を意識しないわけではありませんが、エフエム茶笛の選曲においても、年代のバランスを意識することが大事だと思います。また、アミーゴでも落語の企画は好評ですが、日曜日の番組「落語の時間ですよ」は、古い作品も多く取り扱っていて、自社制作番組ではないのかもしれませんが、つい聴いてしまいます。

委員：サテライトスタジオの運営が始まって、その反響・効果はいかがですか？

事業者：高い反響・効果を感じています。この春、地域市民が1500人以上集まった航空自衛隊入間基地のランウェイウォークや、愛宕・町屋おとうろうまつりの会場では、以前に比べて当社取材スタッフが市民の皆さんに声を掛けていただく機会が圧倒的に増えたとの報告を受けています。

委員：サテライトスタジオの運営時間を増やす予定はありませんか？

事業者：放送地域内にある他の大型商業施設の皆様との関係も大事にしていかなければなりませんので、慎重に判断していきます。

委員：先日、(ケーブル) テレビが点かなくなり電話も不通になった日がありました。エフエム茶笛を聴いても、特に番組内ではそうした情報を採り上げていませんでした。普段からケーブルテレビとラジオが連携した番組もありますが、災害が起こった時なども、どちらかがだめになってしまっても、どちらかが生きていけば、一層頼りになると思います。

事業者：あの日は、ケーブルテレビが停波した時点で、当社では自社制作の生放送番組の時間ではありませんでした。ケーブルテレビの停波は、FMの自社制作の生放送番組の開始を待たずして復旧しましたので、ケーブルテレビのデータ放送でお詫びを放送し、FMでは採り上げませんでした。番組編成に応じて、適宜、対応してまいります。

事業者：出席委員の皆様ありがとうございました。これにて議事を終了させていただきます。

(以上で議事終了)

7. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

審議機関の答申又は改善意見の内容	事業者による対応措置	対応措置の実行年月日
特になし。		

8. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日

本議事録を、下記の日時、方法にて公表・閲覧可能と致します。

・5月24日より、弊社ホームページ（URL <http://www.fmchappy.jp>）にて掲載。

9. その他の参考事項

特にありません。

以上

社名	株式会社エフエム茶笛
----	------------